べる　きっず

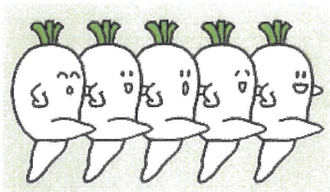
No.11　令和７年 1月24日

すずか幼稚園
第２すずかきしおか幼稚園

大根の収穫

本園では、「食育」の一環として園内に畑を作り、夏野菜や大根を育てています。夏野菜の収穫が終わった後の９月に「大根の種」をまき、水をやったりしながら育てるとともに成長の様子を観察してきました。

今年の９月・10月は非常に暑く、大根の新芽に虫がついて上手く育たないものもありましたが、それでも12月頃には大きく育ち、１月の収穫となりました。すずか幼稚園では１月14日(火)に第２すずかきしおか幼稚園では１月15日(水)に年中組が大根の収穫に取り組みました。(１月15日の第２すずかきしおか幼稚園の大根収穫の様子は、ＮＨＫ津放送局の取材を受け、昼と夕方のニュース番組で紹介されました)
クラスの友だちが収穫する、ものすごく大きな大根、ちょっと小さめの大根、太いのに短い大根、二股に分かれた大根など、いろいろな形の大根に、子どもたちはびっくりしながらも歓声を上げて喜んでいました。
(形が揃っていない大根しかできないのは、素人の大根作りだからです。)
収穫した大根は、家に持ち帰り、ご家庭での食卓に上がったものと思います。



文部科学省は、「食育」の定義として「子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けること」としておりますが、本園では、野菜の栽培に種まきや苗植えから始まり、水やりなどを通して野菜の成長を観察し、それを家庭で味わうことにより「食に関する正しい知識」を体得できていると考えます。
なお、本園で育てている野菜は、すべて有機肥料(植物性または動物性の有機物を原料にした肥料)だけで育てており、「体にいい野菜」ともいえると考えております。

もちつき

「もちつき」は、年末の風物詩として広がっていますが、本園では年末に学習発表会を開催する関係上、年始に行っています。
すずか幼稚園では１月16日(木)に、第２すずかきしおか幼稚園では１月17日(金)にもちつきをしました。

もち米を「せいろ」で蒸し、石臼(いしうす)に入れて杵(きね)でつきます。杵でつく「つき手」を本園の職員が、ついている餅を返す「返し手」を理事長先生が担当しました。子どもたちは、少し小さな石臼と子どもでも扱える小さな杵で、もちつきをして写真撮影をしました。
もちをついている時には、子どもたちは「よいしょ！よいしょ！」と掛け声をかけていました。もち米がだんだんもちになってくると「もちになってきた」という声も聞かれました。
できあがったもちは、石臼から運ばれ、子どもたちが食べやすい大きさに職員が切れ分け、きな粉をまぶして「きな粉もち」にして各クラスに届けられました。
昨今、子どもがもちをのどに詰まらせる事故もありますので、「小さく噛み切って、よく噛んで」と声を掛けながら味わいました。

大事なのは「美しく見る心」

衆生(しゅじょう)の心清浄(せいじょう)なるときはすなわち仏(ほとけ)を見、
もし心不浄(ふじょう)なるときはすなわち仏を見ず。
『弁顕密二教論(べんけんみつにきょうろん)』

不平不満の心が世の中を味気なくする

近年は「仏像ブーム」が続いています。有名な仏像のあるお寺には、中高年層だけでなく若い人たちも大勢足を運ぶようになりました。仏像は、見る人の心を映すともいいます。悲しみを抱えた心で見れば、菩薩像(ぼさつぞう)は慈悲(じひ)そのものの姿に映るでしょう。心おだやかなときに見れば、慈悲の微笑を返してくれそうだし、「心清浄なるとき」は、いっそう美しい姿に見える気がします。
空海は「心不浄なるときはすなわち仏を見ず」と言っています。汚れた心では仏の真の姿さえ見ることができないと。垢(あか)や埃(ほこり)で心のレンズが曇れば、仏像の清らかな姿もただの木のかたまりに見え、自分の心の仏の姿も見えなくなります。
世界が美しく見えるのは「美しいものを美しく見る心」を持っているから。「世の中は汚い、くだらない」と嘆くなら、そう言う自分の心は汚れていないか点検するのが先です。疲れやストレスで周りをよく見る余裕もなくなっていると、世の中はますます味けなく見えるもの。まず疲れを癒し、汚れたレンズを拭って視界をぱあっと明るくしましょう。　　(「人生が変わる　空海　魂をゆさぶる言葉」より)